

## 日本化学会北海道支部 2019 年夏季研究発表会（苫小牧大会）

実行委員長

清水 祐一（苫小牧工業高等専門学校）

7月12日（土）、苫小牧工業高等専門学校において2019年夏季研究発表会が開催されました。前日までの雨模様はひと休みし苫小牧では久しぶりの暖かい日となりました。一般講演は9:10から5会場で合計91件、参加者は147名（一般会員61名、一般非会員1名、学生会員43名、学生非会員42名）でそれぞれの会場で熱心な討論が行われました。会場設備の都合上プロジェクターへの接続がHDMIという制約があり一部接続等の不都合がありましたが、参加者の協力により何とか無事に終えることができました。

お昼休みには川合眞紀会長と支部役員との懇談会があり活発な意見交換が行われました。また、支部総会では支部長の福岡 淳先生から支部活動報告と計画および昨年度決算と今年度予算案について説明と提案があり、了承されました。

特別講演は日本CCS調査株式会社常務取締役・プラント本部長の今井英貴氏による「苫小牧におけるCCS実証試験について」と題してCCSの意義、世界の現状および苫小牧実証センターの実績等についてご講演頂きました。次いで川合眞紀日本化学会会長(自然科学研究機構・分子科学研究所所長)より「世界の化学会を目指して」と題して日本化学会の現状とこれからの果たすべきビジョンについてとても熱いお話を頂戴しました。最後に両講師を囲んで記念撮影し特別講演を終えました。

夕刻からは会場をホテルに移し、懇親会が開催されました。懇親会でも川合会長のご出席を賜り、会の冒頭でご挨拶を頂戴しました。懇親会では久しぶりに会われる方も多く、会員相互の親睦を深めながら楽しいひとときを過ごしました。

おわりに、今回の発表会の開催にあたり多大なるご協力を頂きました北海道支部役員の皆様、苫小牧高専実行委員の皆様とお手伝いいただいた学生の皆さん、そしていろいろとお世話いただいた北海道支部事務局植木さんをはじめ関係者各位に厚くお礼申し上げます。



一般講演の様子



川合会長の特別講演